



原田タケル

NPO 法人共同代表



原田トモコ

担当責任者 / 藤沢市 藤沢1-3-32

印刷所 株式会社 弘報社 千葉県鎌倉市 電話 0474-268

未来デザイン 2019

2025 持続可能な地域生活へ
 オリジナルピクチャーを楽しむなら
 そして、新しい時代を歓迎するなら
 この先にある未来も楽しめるように
 やるべきことに手を打っておくのが
 カッコいい大人の責任。

湘南の地に育ち、働き、老いていく。
 出産から終末までを地域で自分らしく過ごせる
 まちの未来デザイン、一緒に考えませんか。
 そして始めましょう。

シェアするまち
デザインします。



原田タケル
公式サイト

「村岡新駅」は 住民投票で 決めよう。

まちづくり誰が決めるの!?

例えば「村岡新駅」の設置について「賛成」「反対」と一部の人で決めるのではなく、みんなで将来のまちづくりから考えて決めませんか。
 藤沢市の財政不足はこれからの5年間で584億円と予測されています。
 一方で、子どもの居場所も高齢者当事者が求める受け皿も不足しています。

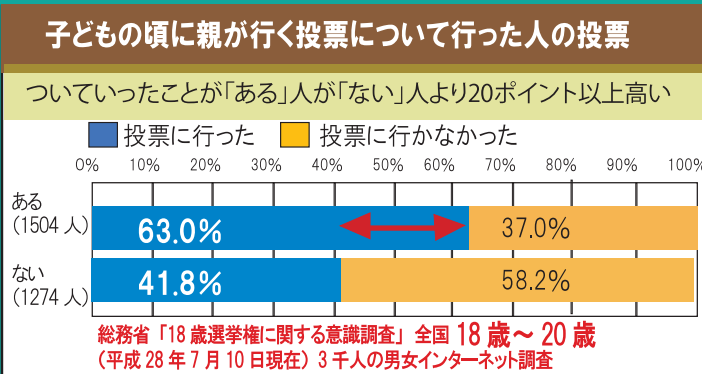
将来のまちづくりを左右する大きな課題は住民参加型で決めるモデルを作りませんか。
 沖縄の県民投票に対しては民意を無視するような政治がまかり通っていますが、
 新しい時代を迎えるなら、旧来の政治のあり方をみんなで返上しましょう。
 住民投票は一つの手段です。
 「村度」やら一部の人の利害で決まってくる政治を、藤沢の地から超えていきましょう。

あなたが未来をデザインする藤沢へ。

行政になんでもお願いして議員にお任せするこれまでの政治は機能不全です。
 それでも、子どもも高齢者も障がい者も外国人も誰もが当事者として課題を抱えています。
 それぞれ自分の困りごとを発信できる シェアするコミュニティ、
 課題解決に向けて機能する地域社会と一緒にデザインしましょう。
 選挙も手段です。

持続可能な未来へ。選挙に行こう!

初めて選挙に行くこと。子どもを連れて選挙に行くことも未来デザインの大切な一歩です。



▶ <https://www.takeru.website/>

<略歴>

- 1965年 横浜市青葉区生まれ54歳 県立市ヶ尾高校から法政大学社会学部へ
- 1999年～ 藤沢市議会議員(2期) 無所属でボランティアとカンパによる選挙を貫き続ける。
- 2011年 県議選に敗れるも前市長による善行の私有地不正取得疑惑を訴え、住民訴訟の原告として市長に勝利。
 ～保育園待機児を抱えての子育て、
 3.11を経て、町内会活動に目覚めて地域の防災・コミュニティ再生に取り組み始める。
- 2013年 参院選で山本太郎さんをボランティアで応援。福島の子どもたちを招き若者たちと毎年の保養キャンプ開始。
- 2015年 地域密着型介護施設を活かした若手による多職種連携の地域づくりに希望を感じ「未来デザイン」を掲げて大政敵相手に県議選に挑むが9657票で敗選。
 【趣味】サッカー 片瀬1丁目在住
- 少年サッカーコーチ、町内会役員は7年目。町内会のスリム化、持続可能性を探求中



2016年5月 熊本被災地へ

避難所生活のストレスから車中泊している被災者がエコノミー症候群など二次災害に陥らないように被災直後からテントを届ける活動等を「チーム藤沢」一員として展開。テントを配る拠点・南阿蘇モンベル店長さんと。



2015.6～ 放課後児童クラブに勤務(麦の子、いるか)

自分の子どもが通った児童クラブに感謝しつつも、人手不足のまま児童クラブを30増やそうとする市の財政計画に疑問を持ち、子どもを中心とした多世代まぜこぜのコミュニティをどうやって地域に再生していくか体当たりで現場検証を開始。

2016.4～ 寺子屋型子どもの居場所4年目に。

児童クラブでは対応しきれない児童、家庭の存在を目の当たりにして、管理型ではない誰でも来られる子どもの居場所を開設。
 週一回、学習支援と近所の大人と交流、地域のコミュニティ再生モデルについて試行錯誤を継続中。



2018.9 NPO法人設立

子どもを中心に多世代異文化共生の地域コミュニティを醸成していくことを通じて社会課題の解決に努める主体となるべくNPO法人を設立。市民と行政との協働事業における新しいモデルを目指す。

市議 元市議

原田トモコ・タケル事務所

藤沢市朝日町15-2 TEL28-1515 FAX28-1500

▼トモコメール odakars@icom.home.ne.jp
 ▼タケルメール pu4t-hrd@asahi-net.or.jp

ボランティア
募集中!